

⑦＜学習指導 教材研究＞

児童生徒の「見方・考え方」が働く授業づくりのための教材研究は？

【キーワード】 実感のある教材研究 見方・考え方

【事例：まずは教師が触れてみよう！教材の味わい】

1 ねらい

教材研究における素材の選定や教材化について、児童生徒の「見方・考え方」が探究の過程で十分に働き、より豊かなものになっていくための教材研究に取り組む。

2 内容

教材研究の効果的な方法を学ぶ。

3 方法

(1) 素材選定で大切にしたいこと

- ① 追究に値する価値を含んだ素材であること
（＝この素材で児童生徒にどのような力がつくのか）
- ② 児童生徒にとって魅力のある素材であること
（＝児童生徒がやってみたいと感じられる素材か）
- ③ 教師がおもしろいと感じる素材であること
（＝教師が魅力を感じられる素材なのか）

(2) 教材化で大切にしたいこと 【授業づくりを料理づくりに例えると】

① 素材の価値を明らかにする。

〔一番おいしくて、栄養のあるところはどこなのか〕

- ② 素材と教師が触れ合い、どのようなときに疑問が生まれ、どのような思考が働き、どのように「見方・考え方」が更新されていくのか。児童生徒が追究する前に、教師がその道筋をたどっておく。そして、素材とかかわった実感を言葉にしていく。

〔どうやったらそのおいしさは引き出せるのか。そして、どのような味わい方が楽しめるのか。実際に調理して味わうことで、教師自身が体感する〕

- ③ その素材と児童生徒とのかかわりを思い描きながら、単元の学びを構想する。

〔児童生徒の実態に合わせてメニューと調理方法を決定する〕

- ④ 実際の授業での児童生徒の学びを捉えながら、単元の道筋を修正していく。

〔児童生徒の食事の様子を見ながら、味付けを変えたり、提供する順序を変えたりする〕



4 校内研修の様子（教材研究の実際）

小学校5年生の算数で学習する「単位量あたり」の単元での教材研究において、児童がどのようなことを感じ、どのような言葉で語り出すのかを、まず教師自身が体験することで思い描いていこうと、研究グループで教材研究に取り組んだ。

〈学習問題〉どの部屋がいちばん混んでいますか。

	A室	B室	C室
畳の数	10枚	10枚	8枚
子どもの人数	6人	5人	5人

教職20年目の先生をリーダーとして、教職5年目から15年目までの先生が集まり、実際の授業で児童生徒の「見方・考え方」がどのように働くのかを体験していく。まず、右上のような学習問題と同じ状況を設定し、そこで何を感じ、どのようなことを考えたのかという教師自身の感覚を伝え合うようにした。そして、リーダーの先生が黒板を使って、それぞれの先生の言葉を板書し、子どもの思考の道筋を構造化していく。そこから、子どもたちにつけたい力を、畳の枚数も子どもの人数も違う状況でも、「1人分の畳の枚数」という考え方を使えば比べられるんだということに気付き、「単位量あたり」の見方・考え方の意味理解を深めていくことであると考え、単元の展開を構想した。



▶セルフチェック⑦-9

研修後に行った算数の授業の様子

子どもたちが実際に畳に行き、C室とD室の広さの畳に寝転がったとき、誰からでもなくつぶやきが聞こえ始めた。「余ったところの3枚に6人が座るとしたら…」「こっちはまた3枚を5人で割らなきゃいけないから」畳を見ながら周りの友だちと口々に意見を交換する。

児童1	D室は畳の数が9枚で子どもの人数が6人なので、 $9 - 6$ が3で、残りの数が3枚になりました。C室とD室の混み具合は、残りの畳の数が同じなので、D室はC室と同じです。
児童2	C室とD室だと、D室の方が…1人分が少ないんだけど…混み具合が同じじゃないから、おかしい。
児童3	えっと、A室で、 $10 \div 6 = 1.66\dots$ で1.7で、B室は2で、C室は1.6で、D室は $9 \div 6$ で1.5で、で、D室が一番混んでいる。
児童4	私は、混み具合だと思う。混み具合だから、C室とD室は同じでいい。

児童は、言葉を選びながら、自分の考えを友に説明していく。たどたどしくも、自分の言葉で説明しようとしていた。それを聞く周りの子も一生懸命に耳を傾け、自分の見方・考え方との違いはどこにあるのか、共通点はどこなのかを分かろうとして友の語りにじっと聞き入り、ときに黒板や自分のノートを見ながら聞いていた。このあとの追究で児童は、「1人分の畳の枚数」という考え方を使えば比べられるんだということに気付き、「単位量あたり」の見方・考え方の意味理解を深めていった。

授業後の感想

○子どもと同じ状況を体験してあったことで、うまく言葉にならない子どもたちの発言の背景にある「見方・考え方」を捉えることができ、子どもたちが自分たちの力で新たな「見方・考え方」に気付いていく授業を具現することができた。